

## 大阪府立西浦支援学校 平成 27 年度 第 2 回学校協議会（記録）

平成 27 年 10 月 13 日（火）に開催しました学校協議会の要旨を報告致します。

協議会会長：加藤 美朗（関西福祉科学大学）  
協議会委員：鈴木 耕治（羽曳野市立西浦小学校 校長）  
辻本 榮一（西浦町会 総括区長）  
石本 悦二（支援センター はる センター長）  
智原 正行（社会福祉法人 向陽学園 理事）  
稲垣 範子（大阪府立西浦支援学校 PTA 会長）

### 1 開会

- ・配布資料の確認
- ・挨拶 校長 東野 裕治
- ・委員紹介 首席

### 2 報告・連絡

- ① 学校経営計画の進捗状況について（校長）
- ・第 1 回の学校協議会で配付した資料に追加  
2 - (2) ウ 水耕栽培に関する部分を追加

- 1 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実と様々な連携による児童・生徒の支援
- (1) 教育実践マトリクスや自立活動チェックリストを活用し、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成。教員、保護者、関係機関等の共通理解を図る。
  - (2) 魅力的でわかる授業づくりのため、シラバス・指導案・授業記録等をデータとして蓄積し、常に授業改善に取り組む。
  - (3) 新しい学校の利点を生かし、様々な様式の統一化を図り、学校全体としてデータの蓄積や分析、引継ぎを効率化していく。

- ・ 1 - (1) 発達課題別にグループを作り授業をしている。教育実践マトリクスについてはグループ決定等にも活用しているが、まだ決定したものではなく年々改訂をすすめ、地域の事業所や小学校などと児童生徒の状況を共通して理解できるものにしていく。
- ・ 1 - (2) シラバスは年度末の総括を受け来年度に活かしていく。また指導案等も蓄積をしている。授業改善のため授業参観週間を設け授業アンケートを行った。
- ・ 1 - (3) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等の様々な様式の統一は少しずつ進んでいる。2～3年かけて統一を進めていく。

## 2 キャリア教育の充実

(1) 卒業後を見通し、小・中・高等部を同じ物差しで見られる新たなスケールの作成と一貫性のあるキャリア教育の構築をめざす。

※キャリア教育のシラバスを整備し、キャリアプランニングマトリクスを毎年練り直し、西浦支援マトリクスを発信。

(2) 地域のリソースを有効に活用することで作業学習や職業コースの授業の充実を図り、関係機関や商業施設、地域事業所等と協働した事業の創設をめざす。

(3) 放課後の活動や校外活動の充実を通じて、自分に自信を持ち、のびのびと意思を表現できる児童生徒の育成をめざす。

・ 2－(1) 職業コースに関しては後期から稼動しており、先日はたまがわ高等支援学校の実習授業の見学を行った。

・ 2－(2) 関係機関や商業施設、地域事業所等との連携の一環として、夏休みに教員が近隣のグループホームでボランティアとして夏祭りを手伝うなどして関係を作っている。

・ 2－(3) 課外クラブに関してはルールを整備と内容の検討を続けている。

## 4 専門性の向上及び人材育成

(1) 障がいに応じた指導法のみならず、人権教育やICT活用、最新福祉事情等の研修を計画的に行い、支援学校教員としての専門性の向上をめざす。

(2) 経験の少ない教員の教員力向上のため、メンター制など効果的な校内支援制度を構築するとともに新たな校務分掌の在り方で有効的かつ効率的な組織運営をめざす。

(3) 公開授業や研究授業を積極的に活用するとともに地域支援学校間での相互研修システムの構築をめざす。

・ 4－(1) 人権の研修は6月と8月に実施した。それ以外の研修に関しても育成研修部が中心になってすすめている。

・ 4－(2) メンター制で研修を行うことで若手の育成と育成する側のスキルアップを進めている。また校務分掌に関しても年度末の総括を経て改めていく。

・ 4－(3) 授業公開週間を設け教員が相互に研修を行っている。

## ② 授業アンケートについて (首席)

・ 授業アンケートを7月に配布し、78.6%の高い回収率であった。

・ 記述の部分で肯定的な評価をいただいている部分もあるが、厳しいご意見もいただいた。今後の授業に活かしていく。

- ③ 職業コースの取り組みについて（首席）
- ・高等部では月曜日 2 時限、水曜日 2 時限、金曜日 3 時限の実習授業を行っている。
  - ・職業コースは喫茶、農園芸、清掃の 3 種類実施している。
  - ・たまがわ高等支援学校において授業見学を実施し、公共交通機関を利用した。
- ④ 進路状況について（進路支援部）
- ・4 月に開校後年間計画を立てたが、修正等しながら進めている。
  - ・高 3 の進路について、就職に結びつく実習先の開拓を続けていく。
- ⑤ 防災関連について（校長）
- ・個人備蓄に関しては PTA と協力し全員分+予備も含め 1.5~2 日分の備蓄を準備している。
  - ・PTA の方では防災について積み立てもしているが、災害時に照明機器やスマホ、携帯を充電する電力を確保することが課題である。ガソリン式はガソリンの保管が難しく、蓄電式は設備設置コストが高い。今後は電力の確保についても考えていかなければならない。

3 協議 本校の「学校教育自己診断」について  
首席より平成 27 年度学校教育自己診断について説明

「教育実践マトリクスについて」

マトリクスとはどのようなものか、※印をつけて注釈を加えた上で簡易版をつけるなど検討する。学校の web サイトに今後掲載の予定。改善しながら保護者や事業所、関係諸機関と共有できるよう努める。学校教育自己診断については注釈と簡易版の教育実践マトリクスをつけて工夫する。

「スケジュールについて」

10 月 26 日保護者に配布。11 月 2 日締め切り。その後集計をして 2 月 15 日の学校協議会にて結果と考察を報告。その後 2 月下旬保護者に配布、学校の web サイトに掲載の予定です。

「キャリア教育について」

『キャリア教育』という言葉の意味を保護者に分かりやすく説明していく。

案件のほかに

「防災について」

避難所指定については、羽曳野市の防災計画に入った後に指定される。

「学校での性教育について」

異性との接し方や心と身体のことについて外部講師として産婦人科医を招いて授業を行うことを計画している。

#### 4 次回の連絡

(首席) 次回は平成 28 年 2 月 15 日 (月) を予定。

閉会